第Ⅳ部門　　震災復興区画整理事業がまちづくりに与えた影響に関する研究
—西宮市・森具地区を対象として—

大阪工業大学工学部　学生員○金羅　祐紀夫
大阪工業大学工学部　学生員　内山　雅之
大阪工業大学工学部　正会員　岩崎　義一

1.はじめに

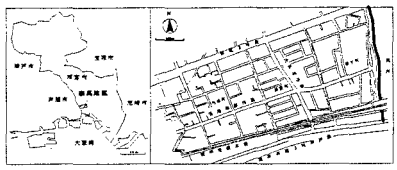
図 1-1 森具地区の位置図

1-1. 目的：1995 年の阪神大震災によって破壊された阪神地区は、6 年後の現在根本的復旧を終えている。しかし、市街地内の地区に視点を移すと、市街地環境が震災前とは異なっているものが多い。こうした地区では、地区計画などを定めるなどして新たなまちづくりに取組み今日に至っている。しかし、地域社会としての共同体や市街地の変化によって都市環境は大きく変化し、潜在的に解決すべき問題が多いものと想像される。

本研究では、復興事業とまちづくりの関係を明らかにする事を目的に、震災復興事業として進められた区画整理事業と地区計画策定がまちづくりに与えた影響と今後の課題について調査した。

1-2. 対象地域：本研究では、老朽住宅や細街路がスプロール化し密集した住宅地であったため、地震により多大な被害を受けた西宮市南部に位置する森具地区(松下町、屋敷町、弓場町、川西町の一部)を対象として（図 1-1)、アンケート調査（H12 年 11 月 143 件、訪問による配布・回収)、市役所・まちづくり協議会にヒアリング調査などを行った。

2. 土地区画整理事業と地区計画策定の経緯

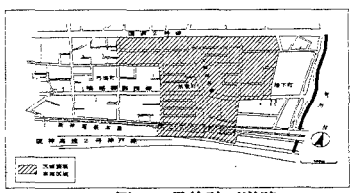
図 2-1 最終計画道路

平成 7 年 3 月、西宮市は今回の震災を教訓に、災害に強い安全で快適な都市型住宅地への再生を図るべく、屋敷町、松下町・弓場町の一部を対象に森具震災復興土地区画整理事業の都市計画決定をした。同年の冬にはまちづくり協議会の検討案を考慮した設計案が西宮市側より示され、翌年 2 月に森具震災復興土地区画整備事業の事業認可に至った(図 2-1)。

土地区画整理事業の仮換地が行われ始めた頃、まちづくり協議会では、区画整理事業の施工区域を対象とし、中高層建築物を抑制し、良好な住宅地の環境を守るための建築条件を作ることを目的とする森具地区計画が平成 9 年 11 月に決定された。その後、対象地区外であった松下町、弓場町も加えられ、対象地区を 3 町全てに広げた最終変更が平成 10 年 12 月に行われた。なおこれに関わった地元組織「香枦園森具地区まちづくり協議会」の積極的な関与があって成就をみたことも見逃せない。当協議会は、行政からの復興区画整理事業案に対して賛同率の低い屋敷町住民が立ち上がり、これに松下町、弓場町も加わって 3 地区合同の組織として結成された。さらに事業に伴いマンション建設等生活環境の妨げとなる要素を計画段階から抑制していこうとする運動が契機となって地区計画策定の運びとなった。当協議会が中心となって頻繁に勉強会や委員会を開催し、区画整理事業と地区計画に対して住民の意見の反映と調整に努め今日に至った。

3. 震災前後でのコミュニティの状況と変化

震災前後の近所付き合いの変化を見ると（図 3-1)、以前と「変化無し」とする意見が最も多いなかで、松下町のようにむしろ「以前より良くなった」とする意見がみられる。特に問題の「付き合いが減少した」とするとする意見の比率が高いのは区画整理事業地区であった。その理由についての解答をみると（図 3-2)、全ての項目において区画整理事業地区が最も比率が高く、特につきあいのあった人が転居又は死去したことが主たる原因であることが分かった。その他、周辺が空き地のままで人の入居が進まないことや、自分が他地区から引っ越してきたことなども比較的高い。また、コミュニティ活動の回復の程度についてみると（図 3-3)、隣近所とのあいさつや地域内清掃は約 60%以上の人が回復したと答えており、しかも新しくできたとする意見もある。しかし、子供会、町内会、婦人会等は回復したとする意見の比率が比較的低く、いわゆる

Masayuki UCHIYAMA　Yukio KINRA　Yoshikazu IWASAKI

地区住民の交流組織が未だ十分に根付いているとはいいがたい状況にあることが想像される。しかし、森具地区の住宅街という地域性が、震災後も住民の市街地に対する意識として継続された事により、既成住民同士のコミュニティが徐々に回復し、既成住民と新住住民の新たなコミュニティ形成を推し進めている。

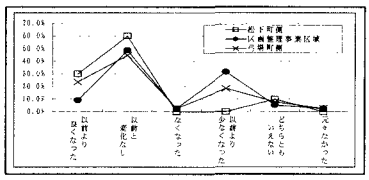

図 3-1　近所付き合いの変化の程度

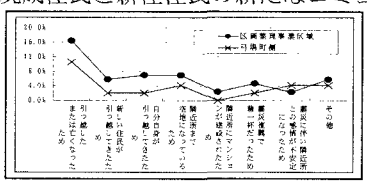

図 3-2「無くなった」「少なくなった」理由

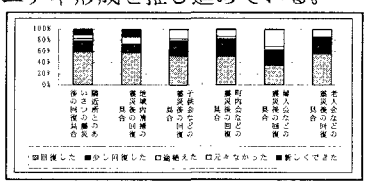

図 3-3　コミュニティ活動の回復の程度

4．土地区画整理事業と地区計画策定に対する住民意識

4-1 土地区画整理事業の進め方について(図 4-1)：全体的な傾向と比べて、区画整理事業地区、弓場町では行政、まちづくり協議会の進め方について不満の意見が見られ、同時にまちの震災復興が早く進んだかどうかについても満足していない意見がみられる。

4-2 土地区画整理事業に対する考え方(図 4-2)：全体的には「災害に強いまちになった」、「まちが整備され安心できる」という意見が多く見られるなかで、区画整理事業地区では「敷地面積が減り納得いかない」、「昔ながらのまちの温かさ、質的深みなどが消えてしまった」といった不満の意見が見られ、区画整理に対する街の防災面での充実は認めつつも、事業後の住宅と地域社会への満足については必ずしも十分ではないと考えている。

4-3 地区計画に対する期待（図 4-3）：全体的には「未整備の公共施設が進む」が最も多く、次いで「早期の震災復興を期待する」という意見が多く見られ、地区別でも基本的には同様の傾向である。なお、公共施設の整備など復旧に関することについては区画整理事業地区で構成比が高い。

4-4 今後のまちづくりへの取り組み参加について(図 4-4)：松下町で「ときどき参加」の意見が強く見られ、区画整理事業地区、弓場町では「ニュースなどで知らせてほしい」が最も多く見られるという大きな違いがある。このことから、震災を経験した地区では「積極的に参加したい」という意見も比較的高い。

4-5 まちづくりに重要と思う事について(図 4-5)：全体的には「町内会などの開催 PR の充実」や「具体的取り組みへの住民参加であると意見が多くなっているなかで、3 地区とも同様傾向にある。特に区画事業地区、弓場町では「行政がきっかけを与えること」、「代表者の選出と住民の理解」という意見が見られる。これらの地区では住民組織が十分に回復していないことがこうした結果になったことも想像できる。

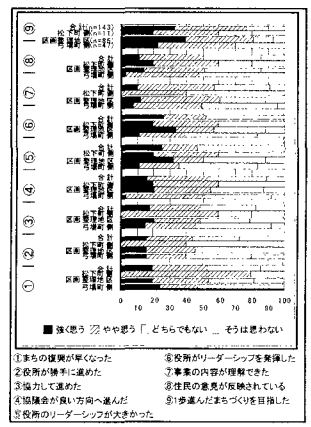

図 4-1　土地区画事業の進め方について

図 4-2　区画整理事業に対しての考え方

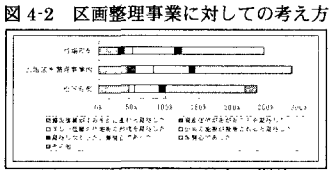

図 4-3　地区計画に対する期待

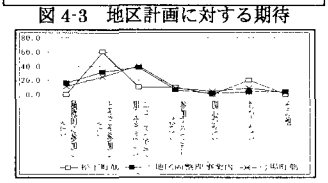

図 4-4　今まちづくりへの取組みについ

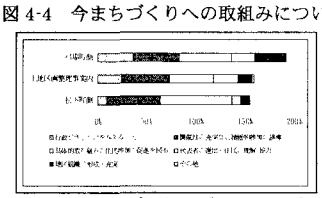

図 4-5　まちづくりに重要と思う事

5．まとめ

①震災後のコミュニティ回復には、震災前のコミュニティが大きく起因していた。②区画整理事業及び地区計画に対する評価としては、復興・復旧の早期推進という点では価値を認めているが、まちづくりや居住地としての満足は必ずしも高いものではない。これは、ヒアリング等によると「とにかく早期復旧を」という住民の気持ちと住人の一部不在の中での事業、計画策定が原因で、うるおいあるまちづくりを考える時間が少なかったことが原因と考えられる。③地域組織を母体として住民意向を反映した事業を実現しようと取り組むことにより新しいコミュニティが形成されるなど計画と事業成果の浸透・波及が進んだと評価できよう。

〈謝辞〉西宮市、森具地区住民の方々、さらに(株)地域計画建築研究所には資料提供など、多大なご協力を頂きました。ここに記してお礼を申し上げます。